令和 7 年 7 月 31 日 不登校シンポジウム報告

不登校の学びと支援を考える ～制度と実践をつなぎ 明日からできることを見つけよう

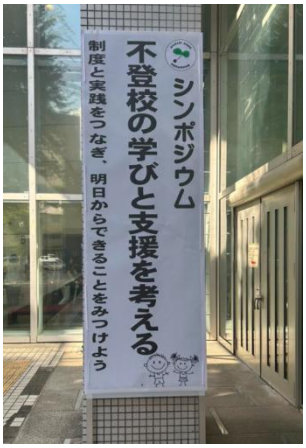
1. 開催概要

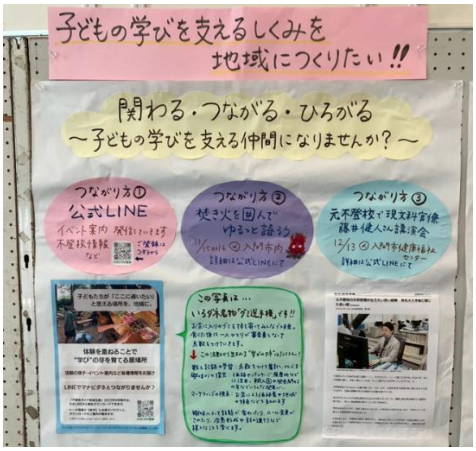
- **日時**:令和 7 年 7 月 31 日(水)13:00～16:45
- **会場**:入間市産業文化センター 大ホール
- **主催**:NPO 法人マナビダネ
- **後援**:入間市、入間市教育委員会、狭山市教育委員会、日高市教育委員会、所沢市教育委員会
- **参加者数**:約 130 名(入間市内教育関係者 51 名・高校教員 1 名・行政関係者 20 名、福祉関係者 18 名 居場所等の支援者 9 名 議員 8 名 ほか関係者 23 名)

2. 開催の背景と目的

不登校の背景には、個別の事情だけでなく、社会の仕組みや価値観も関係しています。
今、私たちに求められているのは、「子どもが安心して学び育つ環境とは何か」を地域全体で問い直すことではないでしょうか。本シンポジウムでは、制度と現場をつなぎながら、子どもを支える多様なオトナたちが出会い、学び合い、つながる場として、実践者とともに不登校支援のこれからを考えました。

3. 会場の様子





4. プログラム概要と内容

第一部 ご講演

講演① 「入間市の不登校の現状について」 東海林 大 先生（入間市教育委員会 学校教育課 主幹）

入間市における不登校の現状や支援体制について、データを交えて説明されました。
「茶ージ Room（SSR)」など校内に設けられた安心できるスペースや、段階的な支援の仕組みが紹介され、
入間市が COCOLO プランに沿って環境整備を進めている様子が伝えられました。
支援が存在していても、情報が届いていないことが課題であり、「知ること」が支援の第一歩であると強調されました。

講演② 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について」

土屋 美樹 氏（文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室）

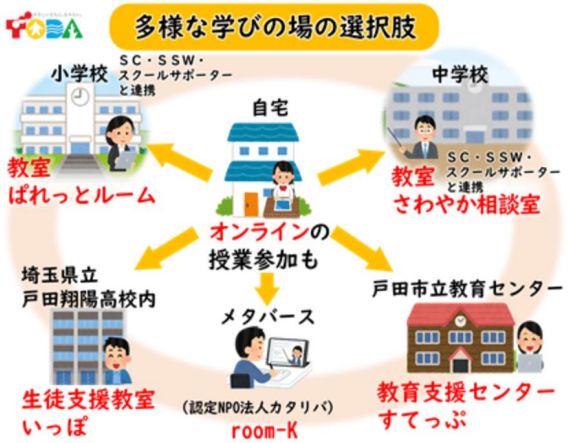
文科省による全国の不登校の状況と、制度の整備に関する説明がありました。

小中学生の不登校率、支援の４分類モデル、校内支援センター（SSR）の具体例などを通じ、制度と現場の接続の重要性が示されました。
「欠席中の学習成果も成績評価の対象になる」法令改正の話など、今後の支援の可能性も提示されました。

講演③　戸田市の不登校対策「戸田型オルタナティブ・プラン」について

菊地 孝徳 先生（戸田市教育委員会 教育政策室 主幹兼指導主事）

戸田市で進められている、多様な学びの場と支援体制の整備について紹介がありました。
「ぱれっとルーム」「room-K」など子どもの状況に応じた支援環境や、WEBQU を活用した“見取り”の工夫、他機関との連携の重要性が語られました。
「学校は安心して挑戦できる場所であるべき」というメッセージとともに、子ども中心の支援の在り方が示されました。



※上の画像は、戸田市教育委員会ｎｏｔｅから拝借しました。https://note.com/toda_boe/n/n17d335eb7214

第二部　座談会「子どもの『学び』を支える現場から ～いま、私たちにできること～」

コーディネーター：桂川 泰典 先生（早稲田大学 教授）

パネリスト： 菊地 孝徳先生／長谷川 万由美／土橋　秀子

座談会では、はじめに「なぜ今この対話が必要なのか」という問題提起からスタートし、パネリストそれぞれの立場から、現場での実践や支援の課題について語られました。
特に次のような論点が印象的でした。

あらためて：シンポジウムの目的

1．**不登校支援の多様な実態を知る**
　→具体的な支援策を知り，選択肢を模索できる

2．**行政・学校・支援者間の情報共有と連携構築**
　→子どものために各立場でできることを確認し協働に向かう

3．**子どもの社会的自立に向けた教育目標を共有する**
　→多様な学びをふまえた「教育目標」の再定義を行う

話題提供：教育目標の再定義

私たちはそれぞれの場で
何をめざして子ども関わることができるだろう？

・何をめざして「場」をつくっていくか
・アセスメント（見取り）で重要な観点とは
・「個に合わせた」とはどのような取り組みか
・集団のちからをどのように利用するか
・保護者の理解・協力関係をどのように築くか
・子どもの成長（から自立へ向かった）事例
・多職種連携のキーポイント

それぞれのお立場での考えを伺います

- **支援の選択肢を多様に持つことの重要性**

  子どもや家庭に合った「場」や関わり方が選べることが、安心や希望につながる。

- **「みとる力」が支援の出発点**

  子どもの状態を丁寧に見立てることが、適切な支援の第一歩となる。

- **心のエネルギーの変化に気づく視点**

  フリースクールや適応指導教室での、発言・表情・関係性の変化など、子どもの小さな変化に注目する重要性が語られた。

- **関係は何度でも築き直せる**

  支援がうまくいかないときも、タイミングを見て再び関わることができる柔軟さが重要。

- **就学前からの関わりが鍵**

  幼稚園・保育園と小学校の連携が、不登校の予防につながるという調査結果も紹介された。

支援に「正解」はなく、「その子にとって意味のある関わりとは何か」を問い続けることの大切さが、登壇者全員に共通するメッセージでした。

5. 参加者の声（一部抜粋、許可をいただいた方を掲載しました）

- 内容の濃いシンポジウムをありがとうございました。参加できてよかったです。
- 子どもに「大人っていいな」と思ってもらえる関わりをしたいと思いました。
- 対談がとても素晴らしかったです。
- 戸田市の実践や幼保小の連携の話、現場のリアルな声が大変参考になりました。ファシリテーターの進行も落ち着いていて、安心して聴くことができました。
- 同じ思いを持つ人がこれだけ集まったことが励みになりました。
- 「ボールの投げ方、相手が取りやすいように投げられるように子の話」が心に残りました。

6. 主催者からのふりかえり

今回のシンポジウムでは、子どもたちの学びの多様性と、それを支える地域の可能性を示すことができたと感じています。小さな団体による挑戦でしたが、「やってくれてありがとう」という声を多方面からいただき、大きな励ましとなり、次への力をもらいました。

特に印象的だったのは、入間市の中田教育長が最後まで熱心にご参加くださり、メモを取られる姿が見られたこと。他市町村の教育長の姿もあり、関心の高まりを実感しました。

多様な立場の方々が集まり、制度と実践をつなぎながら共に学ぶ時間を共有できたことに、確かな手応えを感じています。

7. 今後の展望とご案内

本シンポジウムをきっかけに、支援者同士のネットワークづくりや学びの場づくりを継続していきます。

▶ **今後の予定（予定含む）**

- **11 月 16 日(日)予定** ：たき火イベント@いるまんなか散歩 （語り合いと交流）
- **12 月 13 日(土)午後** ：文部科学省・藤井健人さんのご講演＋地域課題共有の会
- **2025 年度以降** ：「風の学校」上映会（予定）、支援者向けの勉強会・冊子作成・連携体制の強化

8. 主催・お問い合わせ

NPO 法人マナビダネ https://manabidane.org manabidane@gmail.com
LINE 公式アカウント（QR コード）

☘ 最後に

ご参加・ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

子どもたちが幸せに生きていける社会の実現に向けて、これからもつながり続けていきましょう。